

【主催】 さがみ生活クラブ生協 + 公益財団法人かながわ生き活き市民基金

さがみにもある

朝ご飯抜き、勉強についていけない、居場所がない・・・

子どもの〈新しい貧困〉を知る

経済だけではなく、関係性・コミュニケーション・教育・食など子ども・若者の《新しい貧困・孤立》が広がっています。そして地域には何とかしたいという市民の活動も立ち上がっています。こういう社会だからこそ、市民の力が必要です。

3月19日(日)

10:00～12:30

ユニコムプラザさがみはら
セミナールーム

定員 100名

参加費無料。電話・ファクス・メールでの
事前申し込みにご協力ください。

info@lively-citizens-fund.org

Tell045-620-9044 fax045-620-9045

裏面にファクス利用の場合の
申し込み用紙があります。

講演

困難な状況を生きる子どもたちに 心のよりどころとなる「場」を 湊 岳美さん

(社会福祉士・精神保健福祉士)

スクールソーシャルワーカー歴5年。家庭環境に起因する不登校等の背景に、児童虐待や貧困が関係していることを実感しています。子どもは生まれ育つ環境を選べませんから、どんなに困難な状況であっても「これが当たり前」と思って育っていきます。家族以外と関わることもなく希望も持てずに過ごしている子どもたちに、心のよりどころとなる「場」があれば、認めてくれる「人」がいれば、健全な「大人モデル」があれば、自信をつけて希望を持って生きていくことができると思うのです。

さがみの市民活動を紹介します

あいおいみんなの食堂 佐藤 純子 さん

地域には様々な困難を抱えた子どもたちがいます。一緒にご飯を食べて過ごすことを通じて信頼できるおとなや若者につながったときに、子どもが何らかの希望や夢を持つきっかけになればと思います。また子どもの問題だけでなく、核家族化や共働きの家族も増えて、あそび・だんらん・コミュニケーションの不足など、大人にも必要な居場所になると思います。だれでも参加できる居場所を始めた理由(わけ)、そして今思うこと・・・

ワンエイド 松本 舞 さん

ワンエイドは、座間市の高齢者・障がい者の生活サポートのための NPO 団体。二人の女性が中心となり、移動サービスや本業が不動産業という資格を活かして低価格の住宅紹介なども行っています。生活サポートに携わるうちに食事に困る人たちの存在を知り、とうとうフードバンク事業も始めてしまいました。二人の泣き笑い体験談をご紹介します。

相模原みのり塾 小布施 実穂子さん

相模原みのり塾は、経済的な理由で塾に通えない子どもたちのために、無料で学習支援を行う塾です。「もっと勉強ができるようになりたい。でも、塾に通う費用は出せないし、どうしたらいいだろう」悩んでいる中学生のみなさん、お金がなくても勉強できます！ 無料の学習支援塾があることで子どもたちは・・・そしておとなは・・・

アドバイザー 早川 仁美さん (地域のお茶の間研究所 さろんどて 代表)

茅ヶ崎市で多世代の交流場所「さいとうさんち」、ほんそん子ども食堂「いただきます」を開催する「さろんどて地域のお茶の間研究所」代表早川さんから、市民参加の一步をアドバイス。



連絡先 公益財団法人 かながわ生き活き市民基金
住所：〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 階
TEL：045-620-9044 FAX：045-620-9045
Mail：info@lively-citizens-fund.org

6人に一人の子どもが相対的な貧困状態に

しかし、多くの方は、「え、ほんとう?」「実感がない」、「発展途上国の貧困に苦しむ子どもに比べて、日本の子どもたちは幸せですよ」と思われているのではないのでしょうか。日本の子どもの6人に一人が陥る「相対的貧困」とは、一人あたりの可処分所得を並べ、中央値のさらに半分以下の世帯をいいます。2011年のデータでは貧困ラインは親子二人の世帯で月額約15万円、夫婦に子ども二人では約21万円足らずとなります。その中からアパート代、食費、教育費などを出さなければならず、ぎりぎりの生活を強いられている子どもが、日本では325万人もいるということです。

日本での貧困の特徴は、自分だけが落ちていく様に感じる《孤立感》…そして拡がる《新しい貧困》

貧困というだけで差別が生まれるため、自分の貧困を知られたくなく、その結果、人と人とのつながりが切れ孤立を深めます。現代社会に暮らす子ども若者にとって、スマホが持てない、人並みのおしゃれができない環境は苦しいものです。修学旅行に参加できない、学校以外の文化的な多様な経験が少ない、塾でもう少し学べたら…周りの人ができる経験をあきらめざるを得ません。自分ひとりだけが周囲とは違う存在として孤立感を深め、コミュニケーションの機会も少ないまま、自己肯定感、めざす夢、よりどころを失っていく状況にあります。

不登校の背景の一つに、虐待、貧困、コミュニケーションが不得意、不安などがあるとわれます。経済だけでなく、教育・食・コミュニケーションが十分ではないなどの《新しい貧困》が子ども社会にも広がっています。

すでに始まっている市民の居場所づくり…

相模原市・座間市・伊勢原市・厚木市・綾瀬市・大和市の市民活動も調査

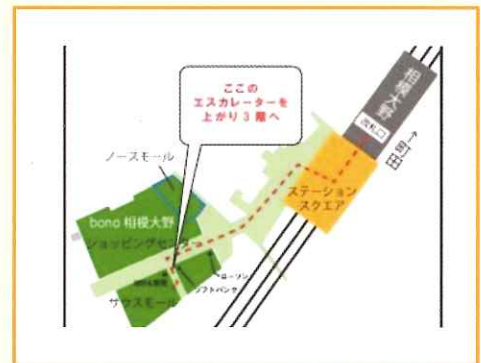
それに気づいた市民のグループが、学習支援・子ども食堂などの子どもの居場所を複数立ち上げています。あなたの周りにもあるはずです。最初は既存のグループへ参加することからはじめ、地域にたくさんのさまざまな居場所ができ、子どもそしておとなも、家庭や職場・学校以外になじめる場をもつことができれば、《新しい貧困》に立ち向かっていけるのではないかと思います。フォーラムを企画しました。

子どもの新しい貧困とその背景、そして子供に寄り添い、課題に立ち向かう市民活動をしり、私たちが行動の一步を踏み出しましょう。

「さがみにもある子どもの新しい貧困を知るフォーラム」参加申込書

お名前	
ご住所	
ご連絡先	

記入された個人情報は適切に管理し、このフォーラム以外には使用しません。



【連絡先】
公益財団法人かながわ生き生き市民基金
住所：〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15-6 階
TEL：045-620-9044
Mail：info@lively-citizens-fund.org

FAX：045-620-9045

フォーラムは、財団の「福祉たすけあい基金」を活用し、2月19日逗子市、4月16日港北区菊名で開催予定。